838
297
116

石尾野原

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原
石尾
本國摂津
紋橘杭
十羅刹

俵藤太秀郷十二世
荒木盛長後裔

荒木大藏大輔
某
傳曰本州波多野一族移摂州居住焉

荒木義作守
元重
生國摂津

荒木志摩守
元清
生國摂津
住摂州花隈城

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

元清 慶長五年庚子五廿三元年七十五
子右心

治一 石尾與兵衛 越後寺 始属荒木村重
弘治二年丙辰生摂州花隈城
自若年仕羽柴筑前守秀吉數度有軍功為黄母衣 文禄三年仲冬
慶長五年庚子奉仕 伏見修造引
大神君同十九年甲寅大坂役従 御陣
台徳公同廿年乙卯夏大坂役属 御旗本本多大隅守組
凱陣後賜知行二千石
寛永八年辛未七廿六元年七十五歳
于前越州大寺住處道粒居士

治昌 石尾七兵衛 越後寺 老摩寺 改仕号宗貫
生國摂津

慶長元年丙申生摂州花隈
同十九年甲寅冬大坂役従子父治一出陣於摂州西宮御陣所留守
台徳公同廿年乙卯夏大坂役又同在本多大隅守組
元和 年子冬住為州花畑御番
寛永八年辛未改自賜二千石同九年壬申賜 御遺物銀百枚
同年八月十四命二刀吉田城引渡御用無長井五左衛門同伴渡賜金一枚
時被二羽織同年九十六日府 拝禮酒井河内守被露
正保二年乙酉八五月府 拝禮酒井河内守被露
是歳御国慶安元年戊子五十一
宗源院君御葬送御石塔建立御用無仙石越前守勤之旨
同二年己丑六十六就日光山
大猷公御廟所普請奉行被仰付藏船数百艘廻漕御用無仙石越前守勤之旨
相談之勤孝行旨趣載酒井讃岐守傳ニ
承應二年癸巳四三位日光山普請奉行而和諸大夫之下於日光山酒井
讃岐守傳於居 納者因州侯名代摩寺
寛文四年甲辰十二廿七隠居賜三百俵同廿七剃髪改宗貫

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同十年廿七死年七十五葬瑞泉山祥雲寺
号瑞應院一峰宗貫居士

佐治重 氏一 石尾助左衛門 七兵衛

廿弓大治兵契大船遠江親清女 文正元年正月廿六日 改仕号宗雪

寛永九年壬申月始拜
大猷公同十七年庚辰三十八才台徳大
寛文四年甲辰十二廿七卒智
同十三年癸丑六十八 法皇御所 新院御所 院御所御造営助奉行
号可全或就旨光中傳之 桜井庄之助平野次郎左衛門同奉行
延宝二年甲寅平京御作事或就旨 賜金二枚
時彼之功績 同七年己未八 播州姫路城引渡御用同十月
御暇賜金二枚 時服二領 播州姫路城引渡御用 同十月
同八年庚申七廿四卒
同九年酉七廿四卒代 同廿四日
同九年酉七廿四卒代 奥州白川城引渡御用 太田善四郎 同年九十六
御暇賜金二枚 同年十四日 拝領 拝謁

妹子 石尾惣十郎 書院番 小出土佐守重家

天和二年戌正十五播州姫路城引渡御用 同年三月
三枚 竹中彦八御支配 同年三月 賜金
同年加増百石 後料合 賜二千五百石
同三年癸亥八十七日光御目代 同廿四日
文昭院 四代 家綱 号泰雲寺
元禄六年癸酉十二六卒 改宝寿
同十三年庚辰四廿二死年 葬江戸瑞林院竹渓宝寿居士

氏信 石尾織部 阿波守

廿戸川平左衛門 女

延宝六年戊午五十始 御目見 銀馬代
元禄六年癸酉十二六卒智二千石 名弥三百石 御加増 於芳町
御切米 信州 信濃 松本 方金馬代 同十年丁巳三十八
同七年庚午五十四 従 御中 御免 松本方金馬代 同十年丁巳三十八

氏章　石尾又次郎

御書院番　青山丹後守組
元禄十二年己卯十二月廿日父代地
同七年甲戌閏正月廿日小姓組
同十六年癸未九月朔日稲垣對馬守上方
十月廿日腋賄金十枚時服二羽織同年
同年　長崎奉行同十月廿八日長崎
改易浪人
宝永二年乙酉十月　御免
同五年戊子十月廿五日死
于瑞龍院殿前
妻　平山主殿　寺島氏女

元禄六年癸酉十二月廿日知三百石
御書院番　青山丹後守組

氏茂　石尾五郎助　勘助　新八郎　主馬
実　座光寺豊後守為信三男
母　知久伊左衛門道政女
宝永五年戊子十月廿七日為父因幡守組
同年十月廿四日家督千俵
享保十年乙巳十月廿日　隠居
法名　宗心

氏茂　石尾主馬　織部　七兵衛　阿波守
実　座光寺豊後守為信三男
母　知久伊左衛門道政女
妻　柴田内匠頭守康仲女　十七才九年丑五十一才
法名　浄腋院湖陰悳慎大姉
延宝五年丁巳生
宝永五年戊子十月廿七日石尾又次郎氏章嗣
同七年庚寅二月廿四日家督千俵
老中列座土屋相模守傳之

同六年正四十八組自中将被仰下
宇佐二手内国三十六人御書院番拝
同九年十月十九日同組頭
法皇陛下五十五叙諸大夫改阿波守
同十八年三月
同七年十二月右改虎介
延宝元年十二月十八日
于長橋院徴崇浄現屋

氏紀

石尾万吉　主馬　七兵衛　阿波守

実　孫山下野守元武二男
室　毛受山市右ヱ門守之娘女
妻　佐野豊前守　行女
妻　松井市左ヱ門　忠春女
玄永六年正五生

室　小笠原壱岐守長寿院盛親女
延宝二年正十八日
于長寿院盛親宅浦肥後守綱利
元文二年巳十二月十九日卒住本所回向院
為看子源居料
宝暦三年酉百石
同
同六年子百
同七年寅九月廿九日卒
同
同六年子百
同七年寅九月廿九日卒住本所回向院
于瑞慶院殿前阿州大守
新井番頭
同十四年辰正月廿日卒
同
同六年子百
同七年寅九月廿九日卒住本所回向院
于瑞慶院殿前阿州大守
新井番頭
同十四年辰正月廿日卒

女子　山岡十兵衛景宣二妻

女子　松井市左ヱ門忠春実松井市左ヱ門之屋ヶ

氏封　石尾主馬　七兵衛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

石尾鐘次郎

曽

妻一柳兵部大輔頼剛女

村濱氏

石野　本國播磨

石野和泉寺　始高松城中寺

播州姫路住得度於加賀利家卿

義刊石野八兵衛

世有馬中務大輔則維法印者自今改石野和泉寺石加州其
居有馬法印則頼維
文禄二年辛巳於伏見而
大神君阿奉称城中寺在何四字法印答曰今改石野和泉寺石加州其
男八兵衛以為子孫有我家
御家有事八兵衛而帰東下向後可下之旨也法印拝領退去
此事急脱而書之

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

従前茂勝へ[illegible]紙面之趣[illegible]
[illegible]
[illegible]

十[illegible]

多羅尾 判

石野中書 殿

文禄四年乙未於伏見拝領上総国二千百五十石余
慶長三年戊戌為御使番 大閤薨去後有馬法印與忠勤
諸牧十御旗方義利勤御使十法印之辞 関ヶ原役已前帰参

関ヶ原合戦御使番七人其一 勤仕後御陣 賜御夜着 真壁山道
明暦七十 賜伊豆国内千石 合賜三千百五十石
慶長十七年壬子十九死 年三十九
号頂松院峯巌道雲居士

氏照 石野八兵衛
母内藤伊賀守忠長女 承応三年甲午正月廿九日卒 号長寿院月窓了昌大姉 葬於牛込養信寺
慶長十四年己酉生
同十七年壬子正月継目 二千百五十石 外於豆州千石 他以幼年之故 替
内藤右馬助政長之聟 為後嗣 及六歳 故居上総 知行
寛永 年生 為御書院番 同年 加賜二千石合
同十六年己卯正廿六為御徒頭
同十九年壬午正六布衣 同年三月 賜金一枚
時服二領 副之
承応二年癸巳閏六月 為伊豆州下田奉行 加賜三百石 後以病辞

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

寛文八年申十月廿四日十年忌ニ
于建性院泊庵無之候

氏住 石野八左ヱ門

万治二年己亥六月七死 葬信寺
于真龍院西想性室

寛文元年辛丑八月廿四日
于自得院覚玄ヲ以剃髪

旗本 石野善四郎 八兵衛改 和信寺葬
竹翁 母

寿六ノ位法号忠景子

万治二年己亥十二月廿日三男信
寛文八年申十月朔日父ニ先立
石川秀信寺往同十一年辛亥六月廿
処宝二年壬寅三月往頭同廿七日
御暇給金之内時服二ヲ拝領
之候ハヽ全之旨書置 寛文六年
丙午二月廿日死

子保四年己未十二月廿五日六十
于浅草新旧幹前之文信州田横渕水隠士

奔養信寺

旗本 松左ヱ門

母ハ多保井氏号忠景子

子保四年己未十二月廿七日死年
家督御礼金馬代

奔養 松左ヱ門

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

則良 石野陸十郎 八大夫
文

寛文二年三月十九日初拝御目見
以三百俵
延宝五年丁巳二十二才四月廿五日
于大休院殿御位御廟守
石野二次郎 八大夫
乾種 幼名源六郎長男
寛文十年庚戌生
母小倉氏
正徳二年壬辰七月廿五日卒
法号巡養信寺
大休院殿御廟守

延宝六年六月十二日任右少将同年十二月三百俵之地
元禄十年十月二十八日卒住祖
法名保六年生
叔母有同十四年旨
院前寺同十九年十月十二月
元文二年十月六
号威音院殿二月依正親
妻 法名 堀田主税正親女

石野千次郎 三次郎 八大夫 施前寺

女子 妻不詳 堀田主税正親女
子在七年三月廿五
卒住

有馬妻 同姓
宝永七年従
父甲斐守有馬誠武卷子

乾 安 女郎島甚右衛門

妻 法名 堀田主税正親女

宝永四年十月廿日卒 法名保六院殿
子保甘五年二月九日卒住祖
宝保二年三月十五日卒 法名保二院殿

石野八大夫 筑前守

母堀田主税正親女 妻
元文四年四月廿日卒
法名保六院殿
寛政四年三月
法住祖
天明六年四月廿日卒
法名保二院殿
寛政四年三月
法住祖

宝暦六年四月廿二日卒 法名保六院殿
同十二年八月 御徒頭
明和九年五月 名跡妻行同
安永六年二月廿七日 御徒頭
于寛性院殿 前筑前守
天明四年二月廿七日卒 法名保二院殿
于延寿院殿 願智妻

乾 安 石野八大夫 筑前守

母堀田主税正親女 妻
元文四年四月廿日卒
法名保六院殿
寛政四年三月
法住祖
天明六年四月廿日卒 法名保二院殿
寛政四年三月 十二月廿六日 諸大夫 改筑前守
法名保二院殿
子和三年二月廿九日卒 法名保二院殿
于大英院殿 旗智妻

女子 母

中臣
石野 本國遠江 改姓 榛木 重榛 兼

安寧天皇皇子磯城津彦命後也中世外記博士又曰中也爲外記博士或曰大外記致時始賜中原姓

勝良 中原雅樂助 後五位下

春宗 後五位下

有親 後四位下

致時 後四位上 始賜中原姓

師任

師平

師遠 大外記 後四位下

親鑑 大外記

親秀 大外記

良春 大外記

能直 評定

能秀 大外記

滿親 大外記

之親 大外記

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

師親 大外記
師元 大外記
師尚 大外記
師綱 大炊助
師季 掃部助

師光 大外記
師宗 造酒正
師良 中原外記

良清 石野新九郎
依敵于尊氏令于移鳌居于駿州水之上悠顧其居庭内石野氏

師重 石野藤左衛門尉
其
正師 石野新兵衛尉
師述 石野兵衛尉

廣綱 石野兵四郎
令廣忠
廣重 石野兵三郎
廣安 石野新衛門尉
師廣 石野

廣成 石野河内守
駿州作倉軍戦死

廣長 石野三左衛門尉
生國駿州
永禄十一年三月出于三州吉田城
大神君後扈神原小平右虎政隊
天正十二年甲申三月廿五日戦死

廣吉 石野六左衛門尉
生國三河
父廣長死幼而為孤得扶持于神原式部大輔虎政及長仕菅沼
小大膳 廣長七年于茲小大膳死故出沼尸以神原虎政言上拝
大神君賜姓
元和六年庚申為石奉行之内事本多備前守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

豊廣

廣之 石野七郎左衛門

生四ニ川

寛永九年壬申、廿二始テ
大猷公ニ御目見ヘ、御番ニ勝ニ御供ニ被仰付、
万治元年戌ニ至テ五十俵ヲ賜ル、
延宝三年乙卯四月六日死ス、寿四十六、
寺法持院道頓ニ異

次廣 石野次郎吉次郎九郎源七郎 惣左衛門

妻 大内藤加兵衛直次ノ男

延寶二年甲寅七十三歳ニ百五十俵ヲ賜ル、
後若狭守ト称ス、前伊豆守ト改ム、
宝永三年丙戌六月十日死ス、
寺摂州元快ニ受ク

廣清 石野弥市郎 八郎左衛門

寛文元年辛丑生、
寛文四年甲辰十四歳ニ御小姓ニ被召出、
元禄六年癸酉十九部屋住ノ
時番入ヲ以テ百俵ヲ賜ル、
宝永二年乙酉八十歳ニ隠居、
稲毛井伝寺ニ葬ル、
正徳四年甲午二月ヲ以テ新御番
行年七十ニ、
寛保二年壬戌二十六日死ス、
寿七十九、
法名法雲院相山尼

廣慶 石野半之助 三郎左衛門

実ハ小栗十次郎源六郎重次ノ男
寛文十一年辛亥生、
寛文十二年壬子ニ御小姓ニ被召出、
延宝元年癸丑十二月二日二百五十俵
ヲ賜ル、
同四年丙辰四月七日新御番ニ被仰付、
宝永二年乙酉八十五歳ニ
隠居、
寿成行寺
正徳四年甲午二月ヲ以テ新御番
行年七十二、
寛保二年壬戌二十六日死ス、
寿八十九、
法名深行院道法日惠

宝暦十三年癸未六月八日
于深達院妙昌相山尼

死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

廣體 石野喜市
母
宝暦七年戊子十一月跡目二百俵
為大番組
明和七年庚寅八月九日寄合行司
号真常院性月日 雑出候

廣次 石野半三郎 八郎左衛門
明和 年
寛政九年巳十一月七日 跡目二百五十俵為小普請組
仰
大御番

女子
母同
櫻井庄次郎政能妻
安永二年巳五月九日葬金剛寺
号諸光院殿空雲智浄大姉

廣貞二廣晴寛永家図如此

廣貞 石野彦八郎

廣有 石野佐八郎

廣時 石野十左衛門
生武州

廣貞 石野彦八郎
生武州
寛永九年壬申任大御番安部摂津守組 同十七年三月賜二百石
同 年 死

廣有 石野佐八郎
武達
母
彦八郎 十右衛門 廣達
慶安二年己丑十二月廿六日大御番
延宝元年致仕
元禄七年卒

時馬 山中喜兵衛
母山中喜兵衛女信時女
為外祖父山中喜兵衛信時養子

廣豊 石野千太郎 十左衛門 源左衛門
母同
延宝四年丙辰七月跡目二百石為水野長門守組
元禄十四年三月御膳奉行
宝永三年丙戌七月一日新御番 竹本

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

石野十郎右馬小左馬

廣利
生母庶出
父相俱武州忍城番賜百三石
正保四年十二廿五為小十人組
明暦四年戌七十九為新御番甲戌
組
寛文十二年子十二廿三辞為十番
組
没子元年子

廣征
廿
寛文十二年子九十三石 小普見
没子元年甲子七十二歳 日二百三石
小普請組
勝方御供

石野助左馬小左馬

元禄十七年子生二十九石相應十番請入後御免名松前伊豆守組
正徳四年午

廣明
廿
正徳四年午十一廿九晦日
二百三石内百俵御切米被
傳之松前伊豆守組
享保四年亥為御小姓組
同九年辰二廿二大御番植村
土佐守組
寛延三年午三月六日卒 法名
詳妙金二枚

石野主水

廣高 石野三九郎
生母
寛永十三年字姑 御目見四十六年大御番物三百俵
御弓多組 寛文六年字三六 大坂御
六月廿日御暇 炒時明正御代
延宝八年庚申十月四死

長廣 石野兵助 六九郎
母

廣龍 石野平吉 六九郎
實同姓将兵衛廣光二男
母
元文四年己未七二歳 三百俵
寛保元年辛酉四月七大御書院番
後評為十番組 組頭 寛延二年己巳十二月
宝暦八年戊寅九六歳仕明和八年辛
卯病 勝屋光村居士

延宝八年庚申十二月廿二歳 三百俵為抜
貞享四年丁卯三八大御番松平
宝永元年甲申四月大坂御城
守備十六年改年二十五日中死 御書院
元文四年己未四八死 年七二 奇牛也若
于患住院 浄天長慶居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

廣保　石野與右衛門　安永七戌年九月廿五日卒　法名秋光院宗機居士　桂林院宗香童女

宝暦八年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎

文政十年丁亥十月九日　子和二年庚午十月廿九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

廣達　石野甚左衛門　文政四年辛巳十一月九日　于事俗法慶安尼壽童女

廣通　石野甚左衛門　寛政八年丙辰生　酉州鷹巣四年于十四　神田伊勢町名主為十人組　勤百俵　後役加七十俵　合二百俵之廉又與方寄番頭　延享八年在寄合　天和二年三月二日　病死

廣光　石野孫兵衛　母水野孫助信之女

元禄九年丙子七九歳　智二百俵　同十五年壬午五十六歳　番番　宝永四年丁亥二月六日　病服物方　于保九年甲辰七月廿　月光居士　廣數番頭　同十六年癸巳四月九

元禄八年乙亥七九歳　同十五年壬午五月八日　葬芝増上寺　塔中方室常圓屋

妻　水野孫助信秀女

廣貞　石野甚左衛門　母

早世　法名如善　于保十三年戊申十五日　病死　同十六年己酉二月七日

廣庸　石野甚助　寛政三年辛亥四月廿日　病死　法名秋光院殿宗機居士

文政元年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎　文政四年辛巳十一月九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

文政元年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎　文政四年辛巳十一月九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

廣庸　石野甚助　寛政三年辛亥四月廿日　病死　法名秋光院殿宗機居士　桂林院宗香童女

文政元年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎　文政四年辛巳十一月九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

文政元年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎　文政四年辛巳十一月九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

廣庸　石野甚助　寛政三年辛亥四月廿日　病死　法名秋光院殿宗機居士　桂林院宗香童女

文政元年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎　文政四年辛巳十一月九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

文政元年戊寅九十八歳　永智三百俵　酒井左衛門尉傳之為旗本三番騎　文政四年辛巳十一月九日　于善醫院　腫瘍患甚可仰度　健壽仕照傳之為旗本

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

石原

廣龍 石野六左衛門 母同 信有 都阿部勇左衛門 母同

石野六左衛門長廣 養子 文保元年辛巳生 同十五年乙卯四月 為仙洞御所御厩御信承養子

廣澄 石野三左衛門 妻阿部勘解由信茂女 寛文四年甲辰八月卒 子信十六年丙子五十二歳 為土要請 延宝三年乙卯七月九日仕従 宝暦三年癸酉四月八日死

正 雄助 母同 為根新左衛門 寛保元年辛酉卒

廣淵 石野四郎一郎 文化 年 時自元保両酒井多宮祐 同十年癸酉十月五日大御番

廣澄 石野千太郎 将監 仕従 宝暦三年癸酉七月二日従 明和七年庚寅八月廿日修理亮 大御番 寛政五年癸丑八月卒頓

之村部姓

石原 本四甲斐文紋 九曜三葉柏 五七桐

清和皇 貞元親王

第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十

第二 出家 玄蕃頭 柏尾脚前寺 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十

嫡子 修行 基綱 修行 修行 修行 修行 修行 修行

基隆 修行 山城守 基長 豊後守 基澄 新十郎

基隆 山城守 基義 右馬介 親基 山城守 基通 豊後守

通重 豊後守 通秀 新十郎 通継 豊後守 通直 新十郎 通元 野尻介

通信 豊後守 通国 野尻介 高国 野尻介 寺田 三好大学大武 修理亮下之村氏

大手大武家守国
男
守時 石原介
此間未詳

寺照 二村薩摩守
仕武田
寺徳 二村山城守
仕武田

某 二村四郎左衛門尉 大和守 仕石原氏
仕武田家従臣氏之祖高政

某 石原四郎左衛門
仕武田刑部大信守

某 仕武田 豊後守 仕武田信隆

某 仕武田 豊後守 仕武田信隆

某 新左衛門 某治守
某 豊前守

某 大炊助
女子 柏原織部守昌信妻

某 豊後守
某 豊後守
女子 仕武田信虎 信玄
子宗隠

白畑伊豆守昌明妻

昌明 源太郎 四郎左衛門尉
母小尾豊前守某女
妻石原清次郎政秋女 小尾豊前守某女
但妻 桜井出羽守信宗養女

天文十年申生甲州
仕信玄晴頼天正十年壬午武田氏滅後同七月於駿府江尾拝
大神君同十二年甲申 御出馬 御帰国之節 御暇申上
写

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

安昌 藤太郎 四郎左衛門

母家女

妻 山田切新左衛門昌次女

慶長四年己亥生 甲州

同十三年 ... 同十八年 ... 大御番 大坂御陣供奉

元和五年己未 渡辺山城守組 駿府御留守居番 同十年 御加増

忠長君 寛永九年壬申三月三日死 年三十四

号捨翁宗誠

女子 母山田氏

山田切庄七郎昌勝妻 太郎作母

後再嫁 本多弥兵衛門 三信 [illegible]

女子 母同

山條吉左衛門 妻

— 宇垣平左衛門

— 女子 [illegible] 妻 [illegible] 母

女子

養子山條藤九郎妻

— 吉左衛門

— 権六郎

— 松本又郎

某 八郎左衛門 父

女子 大塚以之 妻

— 平左衛門

女子 母同 早世

恭昌 母同 四郎左衛門 惣左衛門

妻 大御番 成瀬吉平次女

再妻 山田切新左衛門昌快女

寛永五年戊辰生 甲州

同十七年 ... 同年 九年 ... 大御番 ...

同廿年 ... 上總 下総 ... 吉野田 ...

明暦三年丁酉 ... 万治二年己亥 御免 大坂 ...

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

女子　女子　女子　女子　女子

茶呢　重之　仲権　十郎　矢

女子　女子

女也　女子　小野傳之　鄭高　容孝

八郎　三郎　五郎

女子　女子　女子

始泰福　頼長　信明

廣通　右京　亮　女　物之介

妻　女

再嫁同人

妻神原孝介道女　リみそ

妻同人　二男　孝介　リみそ

妻同人　三男　孝子　リみそ

生捕処ニ

宝永四年亥三月五日四百七十五名　井戸対馬守組

子保四年巳六月十八日井当国より船合　御番手多伊十手組

同十年巳三月四日青山久住町出火之節

水野出羽守組出頭　寛延元年戊辰十月在番　同二年己巳病死

門渡御用　明和二年乙酉三十五歳

安永四年乙未七月九日老許　同五年丙申四月

致仕同七年戊戌十二月十日死年八十四

菩提寺

女子　女子　女子

瀬尾

寛保元年辛酉仕代伊殿御守衛

寛延二年己巳六月七日死年八十七

始泰親　昌勝

信頼

八本立所　在千守　矢

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

女子　鈴木清左衛門尉重之妻
母神右志方介道之子

某　源木助　子孫十郎右衛門尉重幸
　　民部
　　丞

豊　延元三年戊七月廿日於宮延四年己九月十六日死六

女子二人　早也
　　山名摂津守氏
女子　大名信濃之助忠全妻
　　小野吉兵衛吉儀妻
女子

廣寛　金之助　物左衛門
母酒伯美方介豊子
　事跡智美之門遍路ありと
　勇妻之諸名鄉八居久養子
　実北川内南條小左衛門三男

見明和元年甲申三月十六日家督
寛政四年子七月廿日始
名乗神保新亭同八年丙辰十月十六日於此表
時相二歩五厘五毛四糸四忽
日光山修理奉行

正登　蜂屋晴五郎
母子

明和二年乙酉十月三日
蜂屋三郎左衛門則春子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

廣房　壽王　四郎

母誠仲與之女

妻平田四郎之郎道春女

昌親

將監

將監

母宗岡宗清女

寅時摩事日卒

室女

女子

女子

女子

廣昌　與之郎

母平田四郎之郎道春女

孝

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

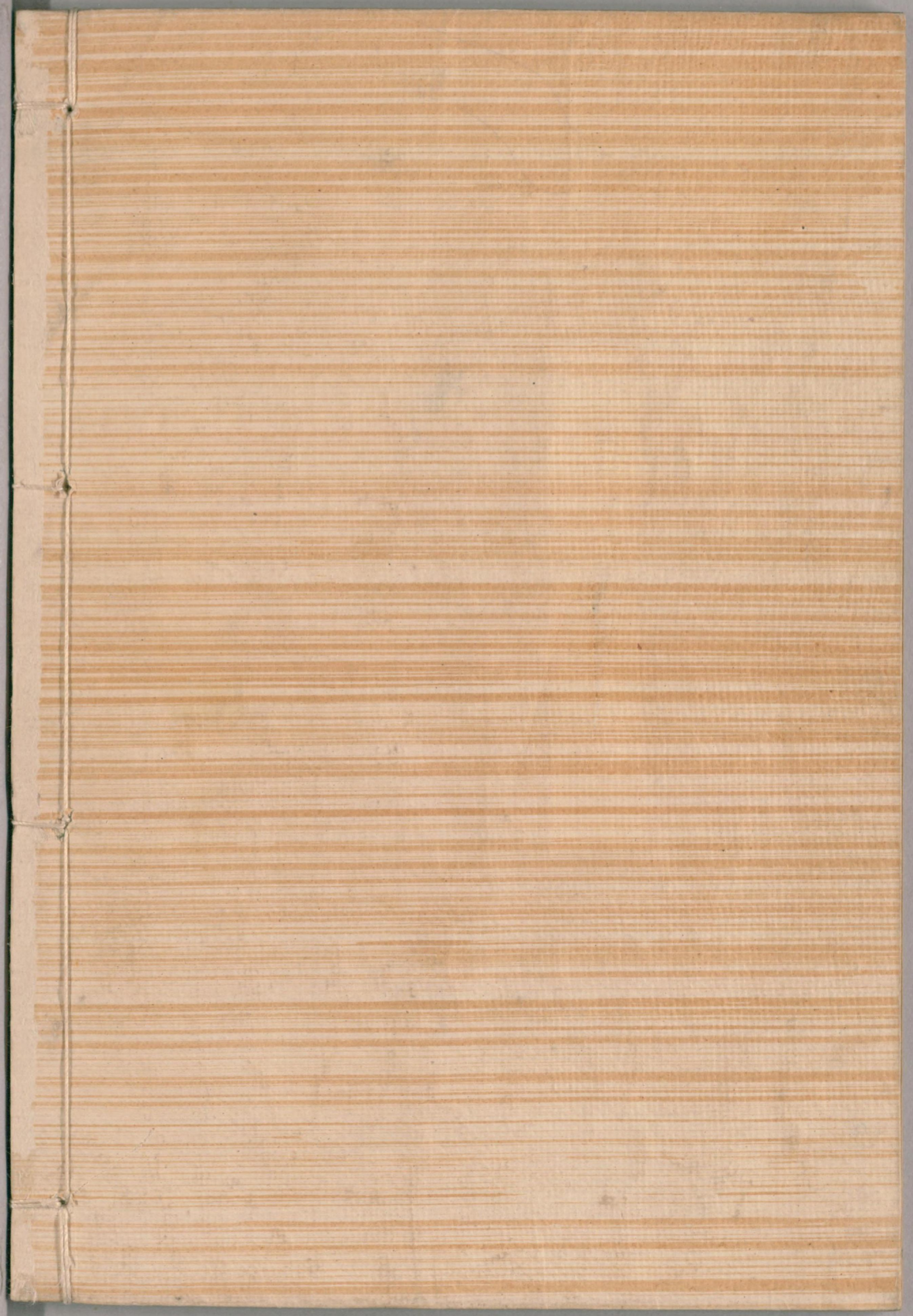
国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用